

息子の心か、將亦我心なるか、真に死だる、息子にも非ず、又我心にも非ず、夫が逆、我心とは、なんぞやと云ふ、研鑽の極度に至れば、全く吾人の呼吸の一息而已。然るに同時間にして、下婢來て、旦那と呼ぶ、其聲に應じて、目を開けば、息子の係は、直ぐ、下婢の容貌と變化する。這の一物こそ、如何なる怪物であるか、之を放てば、六合に涉り、之を捲けば、絲髮に收まるものにして、則ち是れ地の主宰にして、真に興味極まる、神通力を有する、吾人の心性である。我と呼び、渠と呼ぶ、不可思議の一物にして、實に六合をも包て、永却不生不滅の一乘法で、無二無三の、眞田地である、之を自得するのが、禪の修養法の、入り口であります。但し、凡庸の人には、十年座禪するも、極度に至らず。唯禪旨は、渾沌未分を、實窮するの道であります。

其渾沌未分とは、譬て申さば、朝より暮迄、萬言喋々するも、一言半句喋喋するに非ず。又這の眞理に至れば、百億千億の字を書すと雖も、唯々常に、一畫を書する而已。二畫三畫四畫杯は更になし。但し這の眞正の理に

到着すれば、一畫を書すれば一凍する思いあり。學者能く興味を味ふべきである。余も實に、親の子を憐んで、見惡さを識らずと云ふ、古語に倣て之を、書するのみ焉。

之を、研鑽すれば、全く不生不滅と云ふ端的が分りて、雀や蝶も、庭の柳も、水車の音も、古今の聖賢も、豪傑も嚴然として、目前に存在することが分り升と、總て疑念を氷解、一佛場に安心が出来升す。神佛には、元より個々の形體は持ぬから、實窮に至らぬ人は、觀視しにくいなり。譬へば極寒に水を、一滴落すと、一滴凍氷する如し。這の場に至れば、聞く人無く、言ふ人なく、木人自ら語り、石人立て舞ふなり。

五 文書數通

余明治三十九年二月、「一味の禪旨」と題する拙著を出し、厚知の居士及び上人に寄贈せり。然る所、其後に至りて、題辭等を賜りしもの多々、

其中滋賀縣近江國愛知郡高野大本山永源寺管長蘆津大教正等の手翰及び

題辭を左に掲げ、聊か以て茲に其厚志に報ひ奉らんとす。
拜啓消暑之候獅座愈御清福之條奉賀候這回貴著「一味之禪旨」二部御惠贈御
厚情奉感謝候編中収録之機縁語句珠旋玉轉紙面に躍如近來心靈界修養之潮
流は禪海に游泳せんとする傾向に投じて貴著之如きは實に霧海の南針與奉
存候段隨喜拜讀の餘別紙拙稿一首進呈御叱留可被降候猶時下爲法道體御自
重專一に祈上候早々敬具

三十九年七月三日

水源寺派

管長蘆津實全和南

原僧運禪師親下

題一味之禪旨寄原僧運禪師大圓正覺禪師法嗣故及

奪却大圓手中劍 筆端走殺五湖賢

人天命脉指頭制 湘海呼號正覺禪

乞叱正

水源 石蓮全和南

又于余見贈自要門禪師二首

原師著一味之禪 無二法門開示全

學者總須因此學 安心直得不傳傳

又謹賀常福老主古稀之壽

說一味禪明本眞 打唯心話啓蒙塵

七句矍鑠何堪怪 元は無量壽庭人

又常福老師の古稀の壽を賀して

老木ほと色香氣高き櫻かな

明治丁未阜月十八日夜拜聽

僧運老禪師法話有感焉賦拙絶以呈

斯文 奥津廣末定艸

拜聽循々長舌矛 圓通明暗弄天球

想看談話頭妙 非關提翁其一休

即書乞慈正

謹奉謝

舜應老禪師猊下拙陋嚮以不思議好緣辱唯心禪話厚賜薰香拜讀而後少暇其餘芳殆有聞釋花暗香之想頃復賜一味之禪旨寶書反復拜誦而後其煥薰香殆有接梅華開其芳之想雖然真非了解於實空妙有之境而鼻根自覺廣大無邊之清香者即是

老禪師之賜也何以謝之聊布所見以表微衷請幸諒焉皆乘清風垂高教福社不過之恐惶系聲

明治四十年春三月彼岸

斯文學院

奧津獨笑居士

舜應老禪師猊下

余は本年亦一休の發言然たるものを著さんと企つるや、原田安齋氏、獨笑居士、及び黙々居士より懇書を賜る、依つて茲に掲げ謹で深厚の情を感謝し奉る所也。

夫禪者佛祖無文之教而教者亦佛祖有文之者也蓋衆生能由此二者勤修而不倦則得百千三昧於其處世亦大安樂矣抑本書也者原僧運老師兼現此二者而披肝瀝膽說々懇細深得佛祖之意欲除世之迷妄以救衆者所謂古語劍爲不平離寶匣藥因救病出於金瓶之謂歟惟如近代當道法衰頹之秋本書出眞可謂施其劍與藥者而最勝之慶事也接本書成之報欣然布一言以辨其卷端焉

丁未五月念四日

峽陽 辱交原田安齋

雨峰湘水流 東注新磯丘 有寺名常福
 常福本清幽 千茲禪師在 齡過七秩秋
 鑿鼓雄舌 呼雲弄天球 日者觀高著
 懇說似牢牛 仰想話頭妙 非關翁一休

明治丁未夏五月下旬

期文 奥津獨笑居士謹誌

宇宙は其儘活佛教、天地は其儘活禪談、宇宙、天地の實相の外に佛教、禪味ある事無し。春夏秋冬の秩序、生病老死の移り代り、一として佛法、禪理にあらざるは無し。伊藤公爵の才も、小村子爵の能も佛法、禪理の一部分なり。世人は伊藤の世才、小村の俗能は賞揚するも、佛教禪理の趣味あるを知らず、是れ

恰も人の長短は知るも、自己の善悪を知らざる者の如し。僧運禪師是等の迷人の世に跋扈するを悲み、這度亦一書を著はし、名づけて禪學早はかりと稱すと。居士文辭に味しと雖も、禪師の熱誠懇切に感じ、思ふ處を披瀝すと云爾。

東渡逸民

明治四十年十月下旬

默々居士拜記

禪學早わかり終

○漁夫
 風帆柔櫓一漁舟、曲々汀灣芦荻秋、
 無限煙波是吾有、金盆濯足笑王侯。
 ○樵夫
 溪流鳴玉瑟、松韻起龍吟、與白雲來去、
 羲皇以上心。
 ○強風
 風木怒號急、不聞寒鳥聲、山客唯高秋、
 心間夢亦清。

七句愚意

自跋

每歲十二個之性心真如の月

兎角皆さん此世へ客に、
 父母がわたしを、招いた浮世、
 ささに夢見た、其影法師が、
 易は大極、耶穌ではゴット、
 名社變れど、變らぬ物は、
 直ぐに實地に、研鑽すれば、
 春は花咲く、吉野の櫻、
 秋の月夜は、鈴虫螢、
 わしもお前も、皆さん茲じや、

來たは、少しの縁が有る、
 夢か現で、此世を渉る、
 今は此身の、寫真にうつる、
 釋迦は性心、真如の月で、
 鼻と口より、吐出す息を、
 夫が吾人の、胸の月、
 夏は笠着て、暑さを凌ぐ、
 冬は玉散る、高根の雪を、
 篤と見給へ、此活動は、

自跋

貴賤高下の、差別はなくて、
 土の人形で、危ひ身なら、
 そこで吾人の、真如の月は
 月と我とは、昔しのすがた、
 樵り男もこの鉄の柄も
 いつも替らぬ、心の浄土、
 人は誠に、きよてはないが、
 東じらみを、能く見れば、
 わしも一度は、月見たからは、
 死なず生さずの、月く眺め、

生れ附たる、此五體こそ、
 土に歸るは、生れた古郷、
 無形無象に、照り輝きて、
 雨や霰れも、わたしの友で、
 庭の躑躅もお鍋の蓋も
 わしが云のは、虚八百と、
 やがて見さんせ、東が白む、
 わしもお前も、心の京、
 盡ぬ月見で、月夜でいつも、
 月の心で、月に住む、

明治四十年十一月廿二日印刷
 明治四十年十二月廿五日發行

定價四拾五錢



著作

原 僧 運

發行

平 本 正 次

印刷

金 山 佐 次

印刷

博 真 堂

東京市神田區豐島町三十九番地
 東京市神田區豐島町三拾四番地

發行所

東京神田
お茶の水

電話本局二九九九番
振替貯金口座三三三三番

光 融 館

●正信偈講義 (四版) 前田慧雲師講述 定價十二錢 郵税二錢

本講は眞宗祖師前田師が眞宗安心を平易に傾解せしめんため深切に釋さし者

●普勸坐禪儀講義 (四版) 山田孝道師講述 定價二十錢 郵税四錢

坐禪の眞儀及び心得方を解説して漏さず價俗共に修禪者の好伴侶なり

●菩提心論講義 合本 鎌宮大圓師講述 定價十三錢 郵税二錢

●大乘止觀頌講義 釋 清澄師講述

六宗の祖師と崇めらるゝ龍樹菩薩の菩提心論を平明に釋く者也大乘止觀頌は天台宗の觀心の要義と師が平易に譯述せし者也

●因明學大意 村上專精師講述 (再) 定價三十錢 郵税四錢

●因明三十三過本作法講義 池原雅壽師講述 (版) 郵税四錢

因明學は五明學の三つ論理術を研究する學なり一讀千金
○三十三過本作法論理的に吾意志を成立するに過三十三を素索する也

●證道歌講義 山田孝道師講述 定價十六錢 郵税四錢

本書は菩提に志す者の必讀すべき良伴也釋讀の價大附の値あり

●信心銘講義 山田孝道師講述 定價十錢 郵税二錢

此書は參禪の要旨を韻文にて脱顯して證道歌と伯仲の必讀書也

●天台西谷名目講義 前田慧雲師講述 定價三十錢 郵税四錢

本書は天台宗の精髄を集めてその談話の學をなすに最用初學有益の者

●華嚴學栞 藤谷蓮山師講述 定價十八錢 郵税二錢

華嚴經は八十卷あり釋論成道後最初の說法なり本書は其要義を示せり

●八宗綱要講義 (再版) 鎌田得能師講述 定價七十錢 郵税六錢

京都大寺巖然大徳が述べられしものにて八宗の要義を簡易に綱羅せり

●梵文阿彌陀經講義 南條文雄師講述 定價四十錢 郵税四錢

南條師は梵學に明なる識見を以て淨土教の基礎たる梵文阿彌陀經を述ぶ

●佛教大意 (四版) 鎌田得能師講述 定價二十錢 郵税四錢

本書は日本現在佛教の三大宗に於て教理行果は轉迷開悟の一昧道を明せり

●寒山詩講義 (三版) 若生國榮師著 定價四十錢 郵税六錢

若生師が輕快流暢の辭舌もて寒山詩の玄妙なる奥義を發揮せられたる者

般若心經講義

(六版) 大内青樹居士講述 定價十五錢 郵税四錢

佛說法滅盡經講義

般若經六百卷中の真髓を簡明に講じたる心經。末代の佛法滅盡する慘狀を講述せし佛法滅盡經。大内居士が特得の能辨もて平易に解釋せしもの也

學道用心集講義

山田孝道師著 定價三十錢 郵税四錢

本書は承陽大師御遺文中隨中の真髓なり、宗祖の真意を何人にも解了し得る極平易懇切に説かれたるもの也

改悔文講話

全一冊 伊藤哲英師講述 定價十五錢 郵税二錢

本文は蓮如上人の御遺述で真宗の安心法門は幾らす明瞭に講述す

大乘起信論義記講義

鎌田得能師講述 定價七十五錢 郵税八錢

淨律波樓大乘佛敎二時廢退せしと爲り師興隆せられたる妙論の通俗講義書

七十五法名目講義

鎌田得能師講述 定價四十五錢 郵税四錢

素人が佛敎の奥義を知るに必要なる書也鎌田師が平易に説明せられたる者

金剛經講義

釋宗演師著 定價二十錢 郵税四錢

本經は佛祖の心法人類の性徳を説顯したるを師が引證説明せられたり

俱舍宗大意

合本 齊藤唯信師講述 定價四十五錢 郵税四錢

三十唯識論講義

唯識論三十卷あり印度哲學の隨て佛敎に必要の書を簡明に釋く者なり

三十唯識論方法唯心の理は佛敎大乘家の主張する所其要領を明説せり

修證義說教大全

曹洞宗務局文書課編 定價五十五錢 郵税六錢

洞宗の安心たる修證義を斬新なる方法により説教の模範を示したるもの

佛家人名辭書

鷲尾和敬先生著 定價金九圓 第二卷出奈

◎本 敬界唯一の大事業たる本書は本年に於て二卷刊行五月にて完成

父母恩重經講話

若生國榮師講述 定價十錢 郵税二錢

佛説父母恩重經は人道忠孝の大本を示されたるものにして全文を和譯し之れを平易懇切に説かれし者

禪門法語集

(三版) 山田孝道師校註 定價一圓五十錢 郵税十六錢

訂正三版内容は各高僧の法語三十種を收じ參照者必須の珍寶也

續禪門法語集

森 大狂居士校註 定價二圓 郵税廿錢

本集は古僧高僧の法語三十六種を收め風味津々悟道の案内者たり

●一休和尚 一休和尚全集 (三版) 森大狂居士参訂 定價四十錢 郵税六錢

●一休和尚の隨筆、小説物語、謠曲、佛經講義、偈頌、和歌、盡く網羅す

●勅諭正 宗國師 白隱和尚全集 (再版) 禪學編輯局参訂 定價四十錢 郵税六錢

●白隱和尚一生八十餘年間横説摩説見孫の爲に垂示せる者のかた文法語集なり

●佛敎のすゝめ (三版) 山田孝道師著 定價三十錢 郵税六錢

●山田師が經に古今東西の敎理を引證して圓融快活慈哀種々の法語面白し

●浄土 三經之大綱 齋藤唯信師著 定價廿五錢 郵税四錢

●只國佛敎各宗多々中に最盛なる浄土敎の基礎たる三經の綱領を解く者

●宗 七祖の大綱 齋藤唯信師著 定價廿五錢 郵税四錢

●本書は浄土敎々義の父たる七祖につき學佛修道の士の爲め簡明平易に譯せられたるもの

●佛敎倫理の大觀 (新版) 齋藤唯信師著 定價十二錢 郵税二錢

●廣大なる佛敎倫理の一斑を容易に知らしむる爲めに言文一致にて懇切に説きしもの

●武 士 道 (三版) 安部正人先生編 定價卅五錢 郵税六錢

●山岡鐵舟居士口述 勝海舟翁評論 日本武士道につき鐵舟居士の講話せられたのを海舟居士の評を註せられたるもの

●國文學 佛語解釋 織田得能師著 定價一圓五十錢 郵税十四錢

●十二體 本書は國文學十二所中の佛敎語を平易通俗に解釋せられたる者

●日本哲學要論 文學士有馬祐政君著 定價九十錢 郵税十二錢

●日本の哲學的系統即ち神儒佛の發端及び其國和發達の概論せし書なり

●禪林叢書第壹編 森大狂居士参訂 定價三十五錢 郵税六錢

●此書は東坡禪喜集、禪庵和尚垂示、正眼國師眼目を収む珍書也

●禪林叢書第貳編 森大狂居士参訂 定價三十五錢 郵税六錢

●此書は永保大師(道元)法燈國師等の和歌法語居士分燈錄を收む

●和漢高僧傳 織田得能師編 定價六十錢 郵税六錢

●本傳は織田師が意を注いで撰士日本各高僧の傳を網羅せられたる者也

●校訂 大乘起信論義記 (三版) 編輯 定價廿五錢 郵税六錢

●本書は大乗佛敎の眞髓とも云ふべき良書也學佛者は必須すべきものなり

●教育と宗教との關係 (三版) 文學博士元良勇次郎君著 定價郵税共十五錢

●教育と宗教とは離るべからざるかの要點を論じたる者也

●佛教大家論集

全十二冊 定價一圓卅錢 洋裝合本一圓五十錢 郵税不要
本集は全部十二輯にして近代屈指の佛教大家の論辯説話は網羅して燦爛たり

●蓮如上人御略傳并御垂訓

織田得能師著 定價六錢 郵税二錢
此書は師が優麗の健筆を揮ひ簡明に御略傳と御垂訓とを編せられたる也

●佛教金言集

(再版) 織田得能師著 定價廿五錢 郵税四錢
佛書浩漭一々披見し難し本書の如きは金言を抜粹明解せし者以て坐の右銘とせよ

●通俗活禪談

(三版) 形山若生國榮師著 第一集 各定價廿五錢 郵税四錢
第二集 各定價廿五錢 郵税四錢
本集を一讀すれば生死苦樂無礙自在神通妙用も奇特にあらず悟道の要路也

●達磨禪經說通考疏

東嶺禪師著 定價三四 郵税卅四錢
白隱會下に其人ありと知られた東嶺禪師が越格の手眼もて編せられたる珍書也

●延十句觀音經靈驗記

白隱禪師著 定價四十錢 郵税四錢
白隱禪師が實曆の頃撰説堅説廣く編索を盡せられたる垂範なり

●訂正曹洞在家日課要集

(三版) 松崎覺本師編輯 定價八錢 郵税二錢
増補
此編は専ら在家の日用行持に備へたる者至極便益なる小冊子なり

●ちと 櫻 (再版) 山田孝白君著 定價八錢 郵税二錢
坊ちやんと誰ちやん方へ佛教主義の面白くし御話や唱歌が澤山々々

●寢惚の眼覺 白隱禪師著 (二版) 定價六錢 郵税二錢
勘證正宗國師白隱和尚が江戸へ東歸の時衆生の迷夢を覺破せられたる者

●森田悟由禪師法話集 若生國榮師 白鳥勲芳師 共編 定價十二錢 郵税二錢
本書は禪師の垂示、講話、法語等を網羅したるもの也

●訓譯原人論 釋 雲照律師著 定價五錢 郵税二錢
本書は原人論の原本を雲照律師が懇切丁寧に訓譯せられたるものなり

●追善の心得 高田道見師述 定價三錢 郵税二錢
本書は追善をする施主の心得方より供物の撰擇授上の莊嚴等に至る迄苦口丁寧に説かれたるもの

●施餓鬼の由來 高田道見師述 定價三錢 郵税二錢
施餓鬼の緣由、其功德等何人にも解し易く問答体に書述べられたるもの也

●益の由來 高田道見師述 定價三錢 郵税二錢
字關益につき其緣起、其功德を極平易なる詞にて自問自答したるもの施本には極適せり

●大乘佛說論批判

文學博士村上專精著 定價五十錢 郵稅八錢

佛說經千古の未決の大問題たる大乘佛說非佛說につき明晰精駁に解決せらる

●禪門 殺活自在

(再版) 山田孝道師著 定價二十五錢 郵稅四錢

此書は師が優麗の健筆を揮ひ禪學の奧義を尤も平易に記したるもの也

●脩養 禪話

(再版) 後藤北溟師著 定價廿五錢 郵稅不要

本書は古今大禪定家の參禪學道の要訣言行逸話等を網羅す趣味津津

●單刀直入

(三版) 若生國榮師著 定價郵稅共二十五錢

參禪修養の法を單刀直入的に懇々と説きたる禪學書なり

●茶禪一味

(再版) 田中 仙樵著 定價郵稅共二十五錢

茶道と禪道と繋がる所を師の健筆もて説き盡されたる書なり

●一味の禪旨

原僧述師著 定價郵稅共廿五錢

老師の語道の活眼より滿腔の熱誠を凝し禪學の垂示講話せられたるものなり

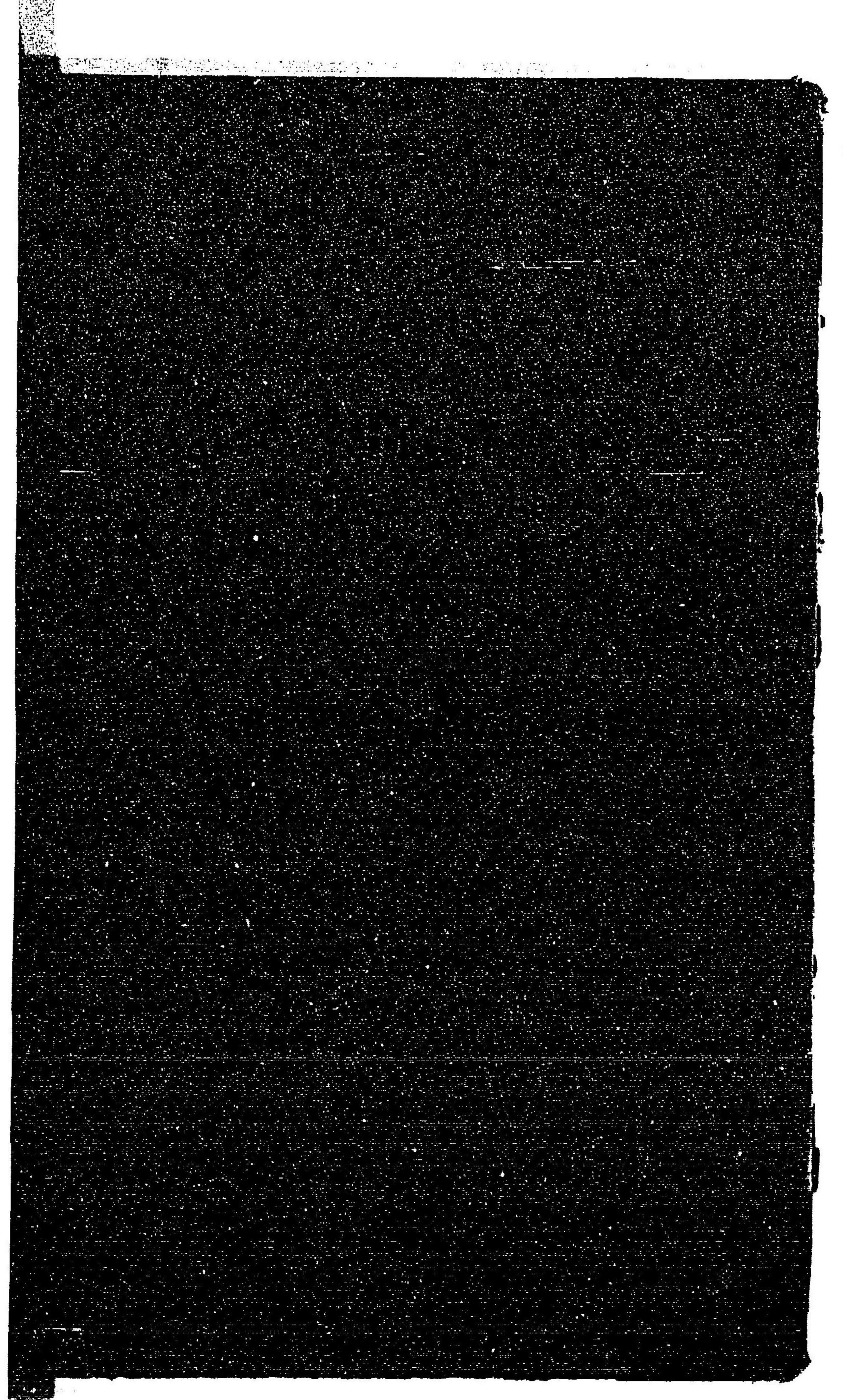
●佛教通俗講義

全廿五冊 毎月一回發行 一冊三十七錢 三冊一圓 六冊一圓九十二錢

佛教家廿二名の懇切に佛典廿餘科を講述せられたれば佛教研究者の好指圖書なり

324
57

7.12.20



324
57

019609-000-5

324-57

禅学早やわかり

原僧運/著

M40.12

ABG-0389



